

<取材のお願い>

2023年10月17日

筑波大学

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

チュニジアの大学院生が世界農業遺産から自然と人との関わりを学ぶ ～熊本県阿蘇地域を舞台にした日本とチュニジアの共同研究～

筑波大学では、10月20日（金）～11月1日（水）、チュニジアのマヌーバ大学から大学院生6名、教員1名、計7名を招へいし、環境デザインに関する共同研究プログラムを実施します。今回来日するのは日本への留学や研究活動に高い関心を持つ、優秀な学生たちです。

チュニジアは北アフリカに位置する農業が盛んな国で、世界農業遺産に3件認定されるなど農業に関する歴史や文化を有しています。本プログラムでは、農村における自然と人との関わりからバイオフィリックデザインの根源を探り、それをウェルビーイング（心身ともに満たされた状態を表す概念）の向上に生かすことを目的とします。バイオフィリックデザインとは、人間には「自然とつながりたい」という本能的欲求があるという概念を反映した空間デザインの手法を、オフィスなどに空間デザインとして反映することで、従業員等の「幸福度・生産性・創造性の向上」を期待するものです。

研究の舞台となるのは、世界文化遺産登録を目指し、世界農業遺産「阿蘇の草原の維持と持続的農業」にも認定されている熊本県阿蘇地域です。熊本県文化企画・世界遺産推進課や熊本大学、地元住民らによるレクチャのほか、野外での五感を重視した現地調査やデータ分析により、地域の自然と人との関わりや文化への理解を深めます。また、農家民泊や地域運営のキャンプ場、青少年交流の家などに宿泊することで、地域の人々と交流し、日本の農村の暮らしを体感します。

プログラムには、本学の学生も1対1のメンター（助言者）として参加します。日本とチュニジアの学生がお互いに意見交換をしながら、バイオフィリックデザインの根源である文化的景観の形成過程と、それを支える暮らしや自然の共通点や相違点を明らかにし、プログラムの終盤では、共同研究の成果を発表します。本プログラムが、環境・デザイン分野におけるアフリカ諸国との連携を築く第一歩となることが期待できます。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>



つきましては、参加学生たちが熊本県阿蘇地域にてレクチャを受ける様子、現地調査やデータ分析をする様子、意見交換会の様子、成果発表会の様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、実施担当の藤田直子教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

- 【実施内容】**
- レクチャ：熊本県文化企画・世界遺産推進室課、熊本大学、地元住民による
 - 熊本県阿蘇地域の現地調査、データ分析、討論、意見交換会
 - 研究成果発表会

【実施場所】 南小国町、阿蘇市、南阿蘇村、古代の里キャンプ村、国立阿蘇青少年交流の家、筑波大学、金村別雷神社ほか

【実施協力】 熊本県文化企画・世界遺産推進課、南小国町中原地区、南小国町役場、手野名水会、手野きよら会、熊本大学田中研究室、熊本市、つくば市上郷市街地活性化協議会、金村別雷神社ほか

【研修日程概要】

10月20日(金)	午前：入国 午後：茨城県つくば市へ移動
10月21日(土)	午前：オリエンテーション、つくば R8 ロゲイニング(つくば市上郷、金村別雷神社) 午後：共同研究活動内容確認 (筑波大学)
10月22日(日)	午前：熊本へ移動 午後：迎え入れ式(南小国町役場)、農家民泊(南小国町)
10月23日(月)	午前：送り出し式(南小国町役場)、地元住民によるレクチャ (南小国町) 午後：現地調査、県文化企画・世界遺産推進課によるレクチャ、データ分析、討論 (南小国町、阿蘇市ほか)
10月24日(火)	午前：現地調査、データ分析、討論 (阿蘇市ほか) 午後：文化交流、意見交換会 (阿蘇市、古代の里キャンプ村)
10月25日(水)	午前：熊本大学によるレクチャと研究発表交流会 (国立阿蘇青少年交流の家) 午後：研究成果発表会、県文化企画・世界遺産推進課によるレクチャと意見交換会 (国立阿蘇青少年交流の家)
10月26日(木)	午前：クラフトワーク (国立阿蘇青少年交流の家) 午後：現地調査、データ分析、討論 (阿蘇市ほか)
10月27日(金)	午前：移動 午後：資料調査、現地調査 (熊本市内)

10月28日(土)	午前：移動 午後：移動、科学技術施設視察（東京都内）
10月29日(日)	午前：資料調査、現地調査（東京都内） 午後：現地調査、データ分析、討論、発表準備（筑波大学）
10月30日(月)	午前：施設視察、発表準備（筑波大学） 午後：研究成果発表会（筑波大学、マヌーバ大学）
10月31日(火)	午前：科学技術施設視察（つくば市内） 午後：発表成果とりまとめ（筑波大学）
11月1日(水)	午前：移動 午後：離日

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

筑波大学

（事務全般：磯原）

（実施全般：芸術系教授・藤田直子）

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

https://form2.jst.go.jp/s/kouhou_form（担当：田中(禎)、太田）